



2023年12月期 第2四半期 決算説明会

2023年9月8日
市光工業株式会社

VISION IN MOTION



目次

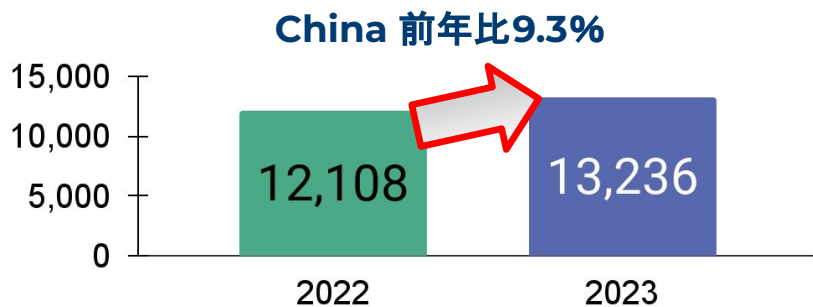
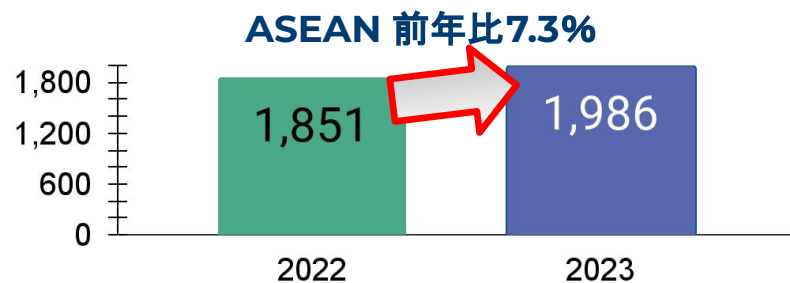
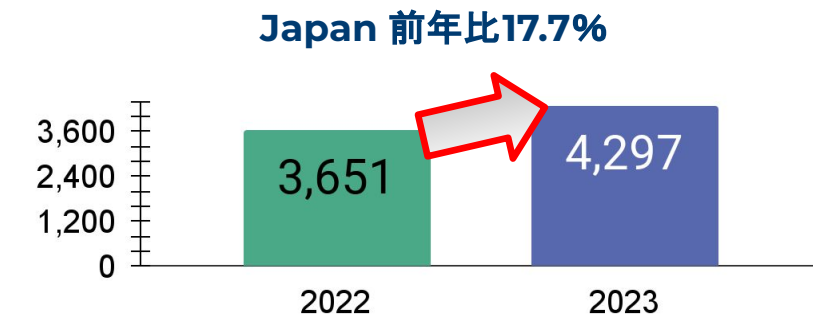
- ① 2023年第2四半期決算概要(2023年1月～6月)
- ② 2023年12月期業績見通し(2023年1月～12月)
- ③ 持続的な企業価値の向上に向けて

01 2023年第2四半期決算概要 (2023年1月～6月)

売上高とマーケット生産台数(前年同期比較) – 2つの市場で成長加速

2023年上期マーケット生産台数*

単位:千台



2023年度上期売上高対マーケット生産台数

2023 vs 2022	当社 売上高 (金型以外、R&D、 為替影響除く)	マーケット 生産台数 増加率	売上高対 マーケット生産台数
市光グループ	21.1%	10.8%	10.3ポイント
Japan	19.2%	17.7%	1.5ポイント
ASEAN	35.3%	7.3%	28.0ポイント
China	-5.4%	9.3%	▲14.7ポイント

ASEAN: Malaysia, Indonesia, Thailand

2023年上半期の売上高増加率は市場成長率を10.3ポイント上回り、アセアンの力強いパフォーマンス(市場成長率超過28pts)と日本における好調(1.5pts)が、中国の減少(-14.7pts)を補完

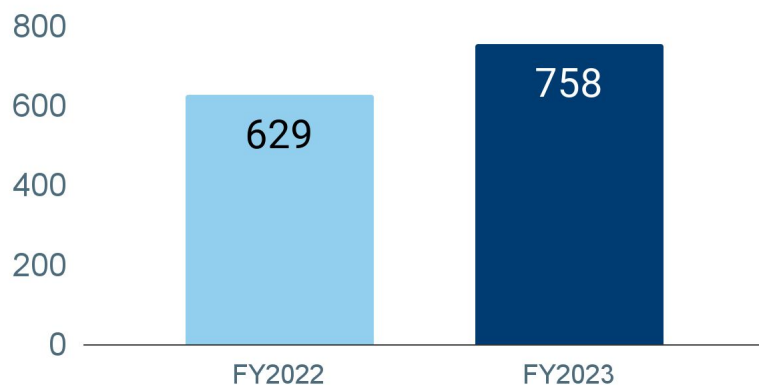
2023年第2四半期 連結業績概要(前年同期比較) — 成長と利益回復

- ◆ 前年同期比では大幅な増収増益
- ◆ 国内では価格転嫁が順調に進んでおり、急成長するアセアン地域における新規プロジェクトの立ち上げに起因する品質関連コスト(一過性費用を含む)を補完

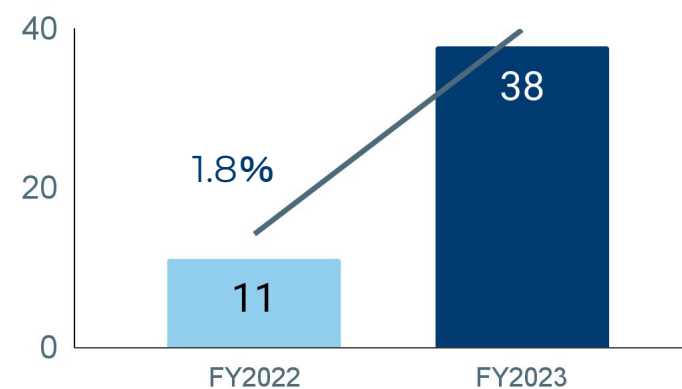
単位:億円/四捨五入

	FY2022同一期間 (2022年1~6月)	FY2023実績 (2023年1~6月)	増減額 (前年対比)		増減率
			①	②	
売上高	629	758	①	128	20.4%
営業利益	11	38	②	27	236.9%
営業利益率	1.8%	5.0%	②/①	20.7%	3.2ポイント
経常利益	16	38		22	134.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	13	25		13	99.1%

連結売上高推移



連結営業利益推移



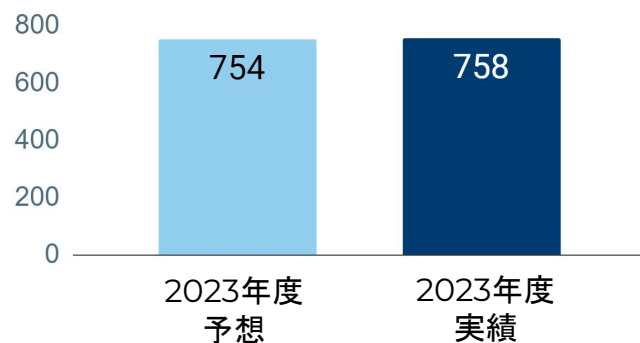
2023年第2四半期 連結業績概要(予想比較) — 東証発表予想値を達成

- ◆ 売上は想定内
- ◆ 営業利益: 想定を上回る迅速な価格転嫁により、アセアンにおける品質改善の遅れと一過性の費用を相殺して期待通りの着地
- ◆ 経常利益: 中国市場の景気減速の影響を受け関係会社持分利益が前年を大幅に下回る

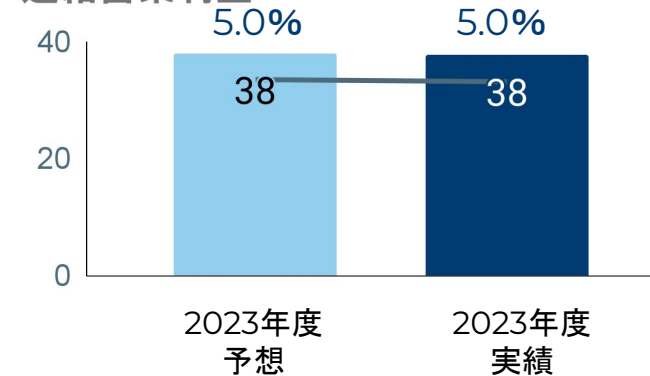
単位: 億円/四捨五入

	FY2023予想 (2023年1~6月) * 2023.5.11.東証発表	FY2023実績 (2023年1~6月)	増減額 (対予想比)		増減率
売上高	754	758	①	4	0.5%
営業利益	38	38	②	▲0	▲0.6%
営業利益率	5.0%	5.0%	②/①	-6.2%	▲0.1ポイント
経常利益	41	38		▲3	▲7.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	30	25		▲5	▲16.0%

連結売上高



連結営業利益

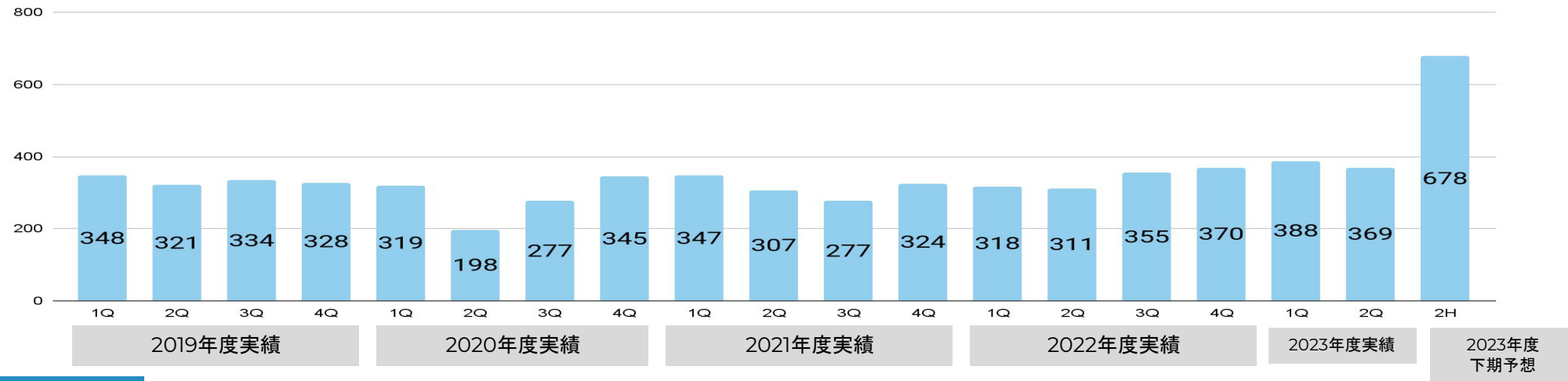


四半期業績推移—平常に回帰

売上高

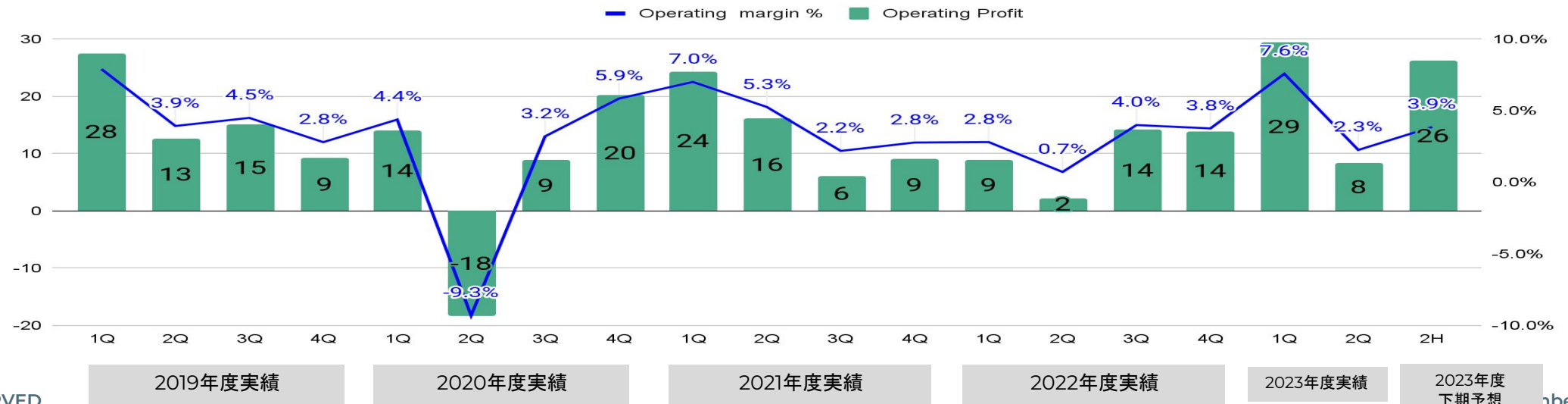
◆ 2023年度においては、1Q-4Qは堅調な推移となり過去の傾向に戻りつつある

単位: 億円/四捨五入



営業利益

◆ 2023年2Qは価格転嫁の回収の期ずれにより2023年1Qより減少



2023年第2四半期地域別業績(対前年同期比)

- ◆ 国内: 売上は強い回復傾向にあり(自動車生産台数の市場成長率を超過)、価格転嫁の進捗もあって 収益増加
- ◆ 海外: タイとインドネシアの SOP効果により売上は対前年比増加。営業利益はアセアンの品質改善の遅れと一過性の費用(在庫評価損と割増し物流費)および中国(ミラー事業)の販売減の影響あり

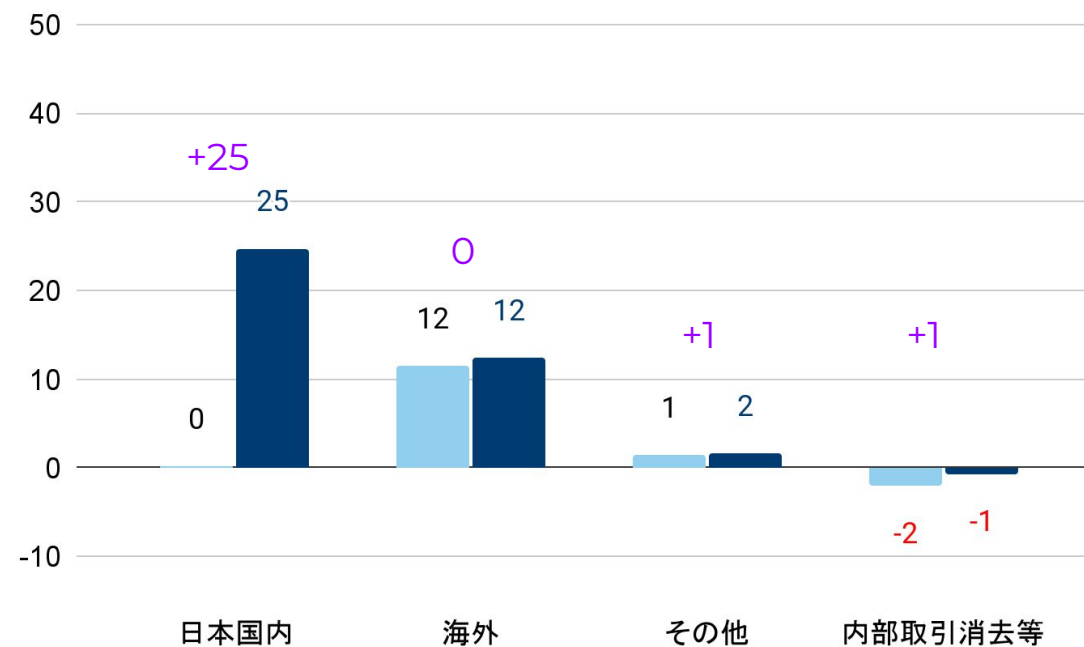
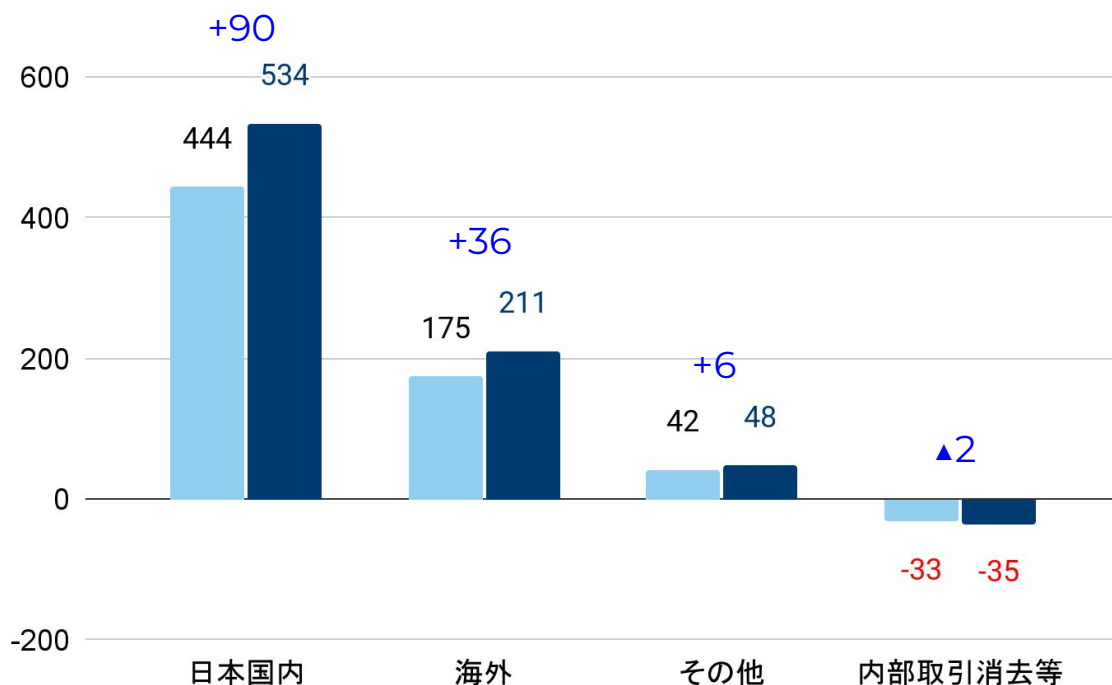
2022年第2四半期

2023年第2四半期

単位: 億円/四捨五入

売上高 629⇒758(前期比+128)

営業利益 11⇒38(前期比+27)
営業利益率 1.8%⇒5.0%(前期比+3.2ポイント)



日本国内: 市光工業単体(伊勢原・藤岡・ミラー・本社)、海外: インドネシア・マレーシア・タイ・中国、

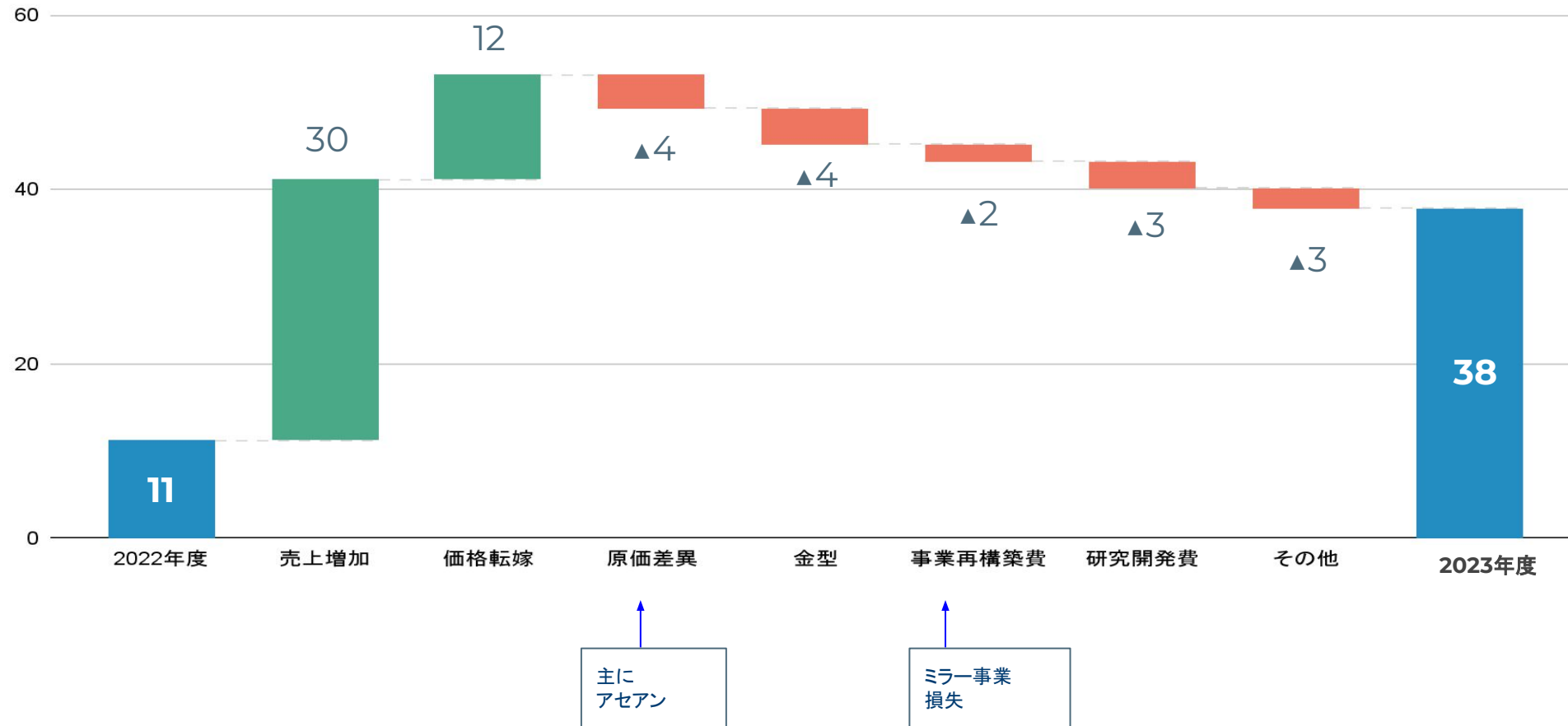
その他: 用品事業(PIAA)

2023年第2四半期 業績のポイント(対前年同期比)

【営業利益】

- ◆ 国内における生産回復と **価格転嫁の進捗**、アセアンにおける売上成長の継続により、**収益性は大幅に改善**。これにより、アセアンにおける品質関連コストと中国における厳しい事業環境を補完

単位:億円/四捨五入

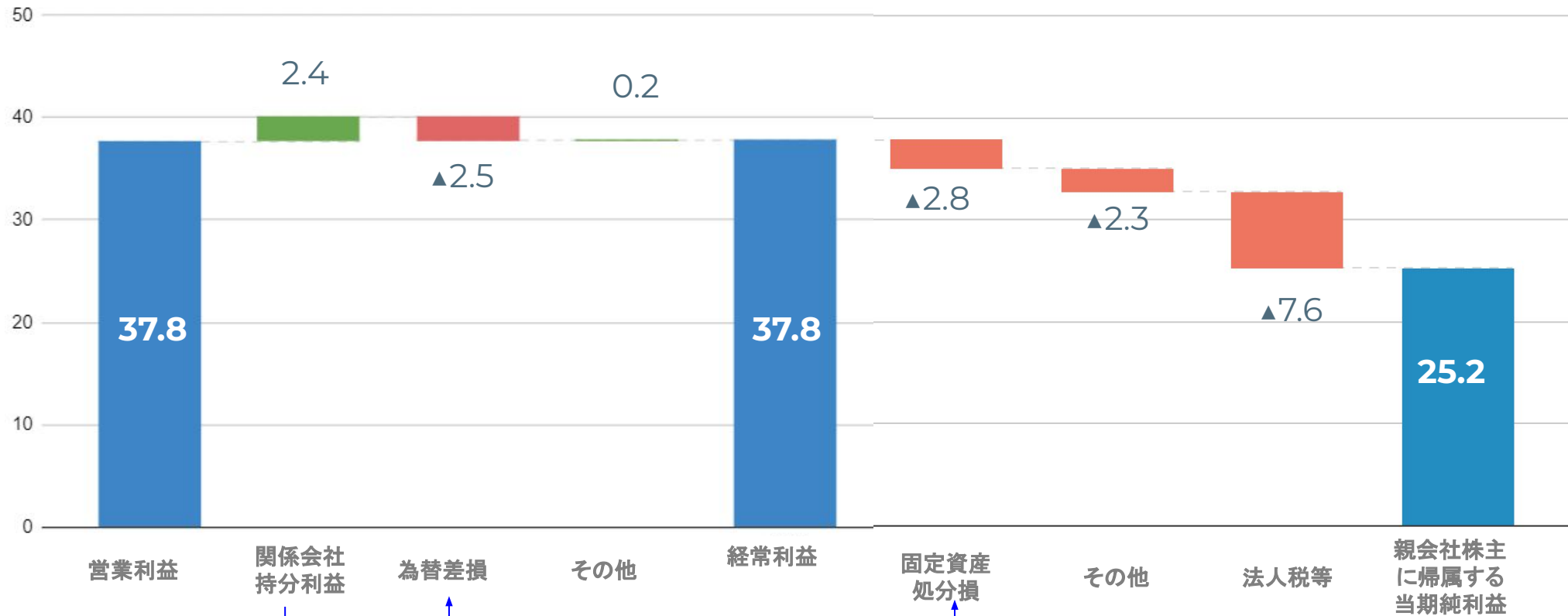


2023年第2四半期 業績のポイント

【営業利益～経常利益～親会社株主に帰属する当期純利益】

- ◆ ヴァレオ中国との在中國ライティング合併会社からの持分利益が前年同期比 5.4億円減少

単位:億円



中国におけるヴァレオとのライティング合併会社から

海外子会社からの購入品

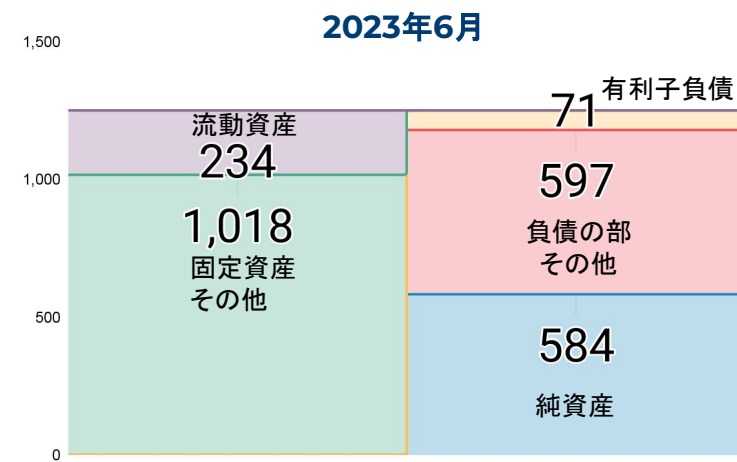
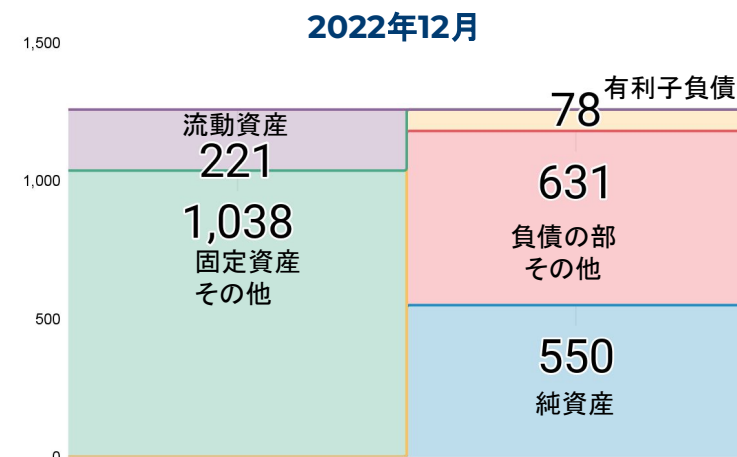
ICHIKOH
a Valeo company

伊勢原再開発費用

2023年第2四半期 連結貸借対照表(前年度期末比)

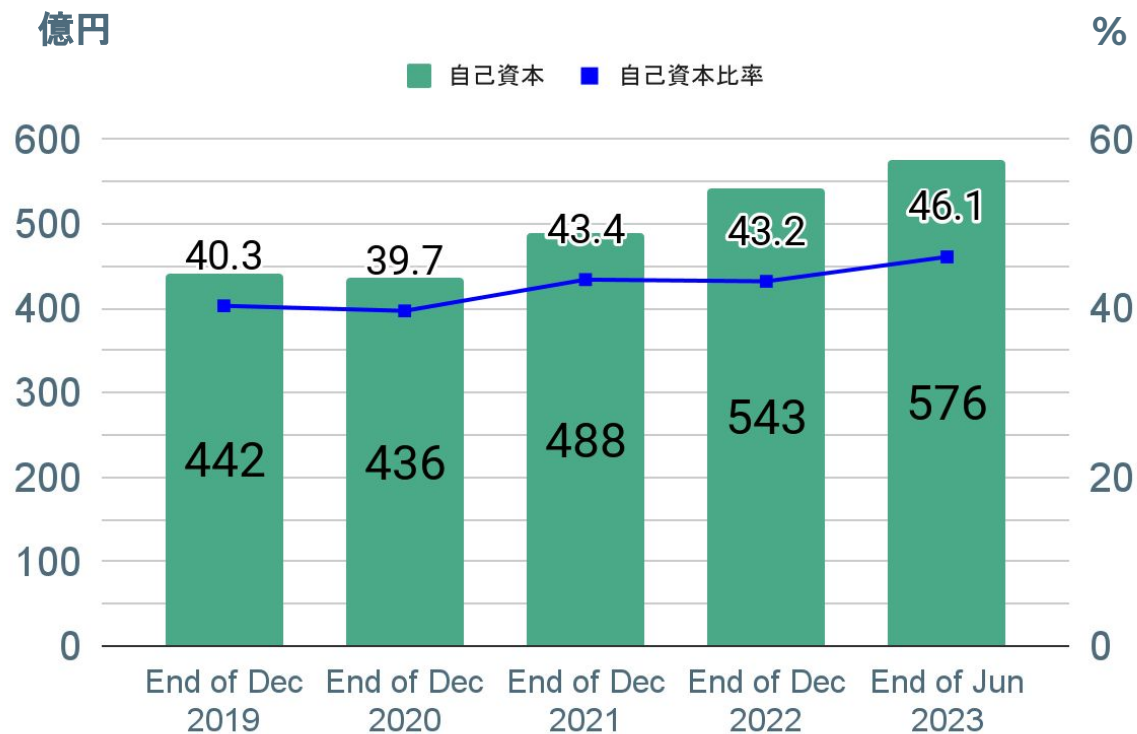
	2022/12	2023/6	増減
現金及び預金	86	97	11
棚卸資産	135	137	2
有形固定資産・無形固定資産	425	437	12
その他	613	580	▲33
資産の部	1,259	1,251	▲8
有利子負債	78	71	▲7
その他	631	597	▲34
負債の部	709	668	▲42
株主資本	570	582	12
その他包括利益累計額	▲27	▲6	21
非支配株主持分	7	7	1
純資産の部	550	584	34

単位:億円/四捨五入

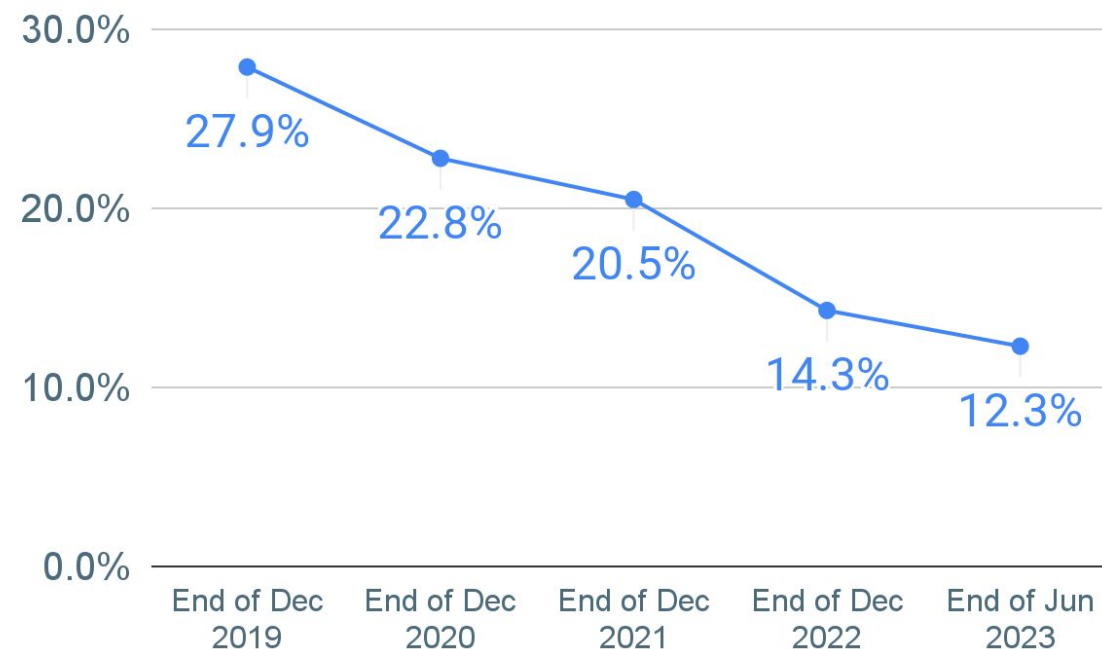


自己資本比率とD/E レシオ

自己資本比率は45%を突破



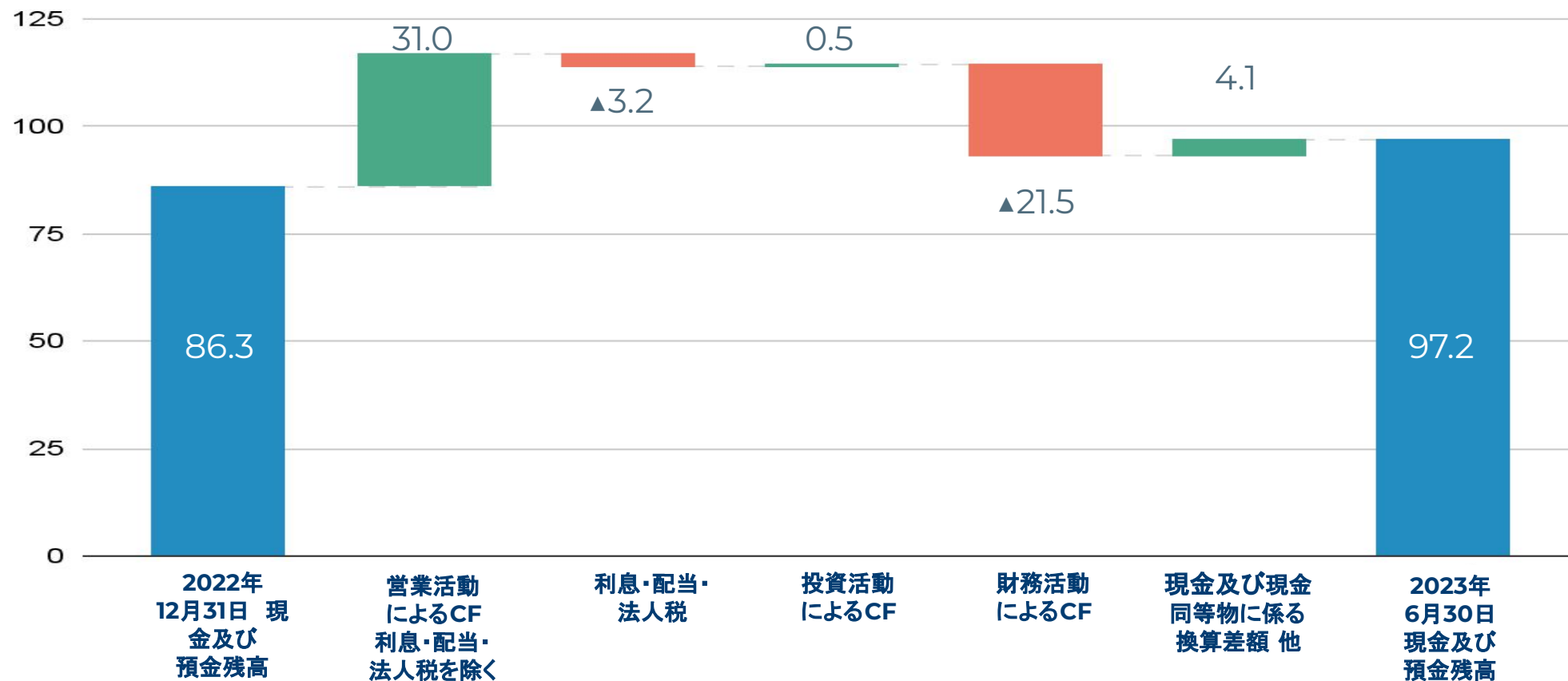
D/E レシオは着実に改善



2023年第2四半期 連結キャッシュフロー(前年度末からの増減)

- ◆ 営業CF(利息・配当・法人税除く)は31億円となり、長短借入金およびリース債務の返済17億円と配当金4億円等に充当
- ◆ 投資CF:短期貸付金25億円を回収し、有形固定資産20億円の取得に充当

単位:億円/四捨五入



02 2023年12月期業績見通し (2023年1月～12月)

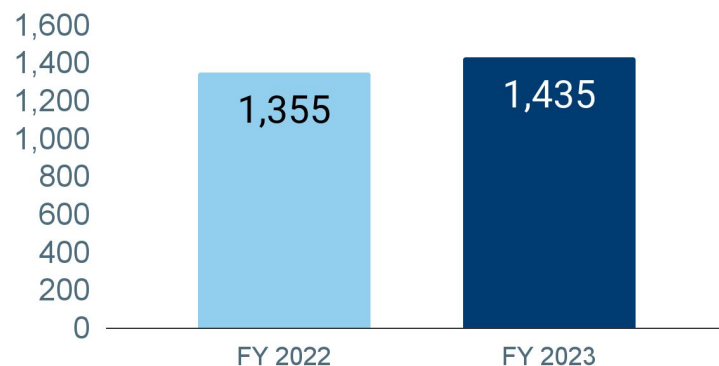
2023年12月期 連結業績見通し(対前年同期比)―業績予想を据え置き

- ◆ 上期の実績を踏まえ、5月11日の東証開示の連結業績予想の達成を見込む

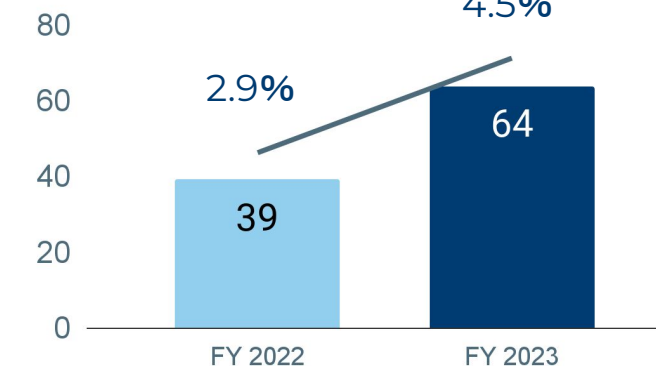
単位:億円/四捨五入

	FY2022 (2022年1~12月)	FY2023予想 (2023年1~12月)	増減額 (前年対比)		増減率
売上高	1,355	1,435	①	80	5.9%
営業利益	39	64	②	25	63.0%
営業利益率	2.9%	4.5%	②/①	30.7%	1.6ポイント
経常利益	54	72		18	34.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	44	53		9	19.8%

連結売上高推移



連結営業利益推移



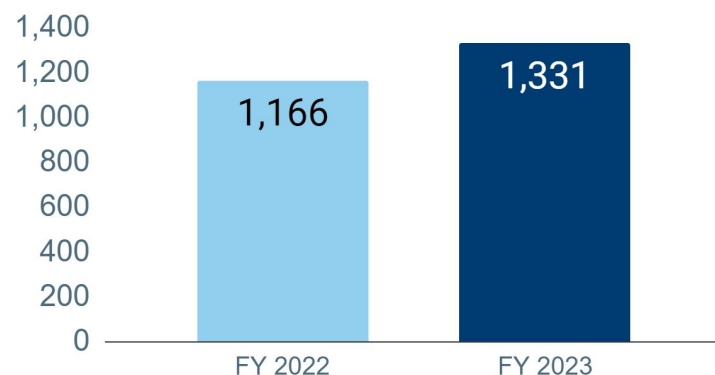
2023年12月期 連結業績見通し(ミラー事業除く)

- ◆ ミラー事業を除いても、販売数量の増加、新モデルの獲得および価格転嫁により、大幅な増収増益を見込む

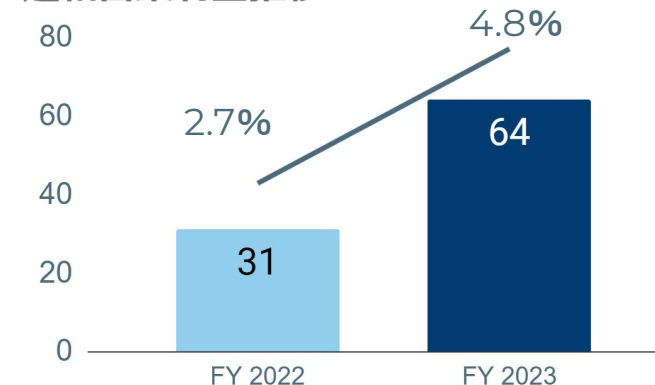
単位:億円/四捨五入

	FY2022 (2022年1~12月)	FY2023 (2023年1~12月)	増減額 (前年対比)		増減率
売上高	1,166	1,331	①	166	14.2%
営業利益	31	64	②	33	105.3%
営業利益率	2.7%	4.8%	②/①	19.9%	2.1ポイント

連結売上高推移



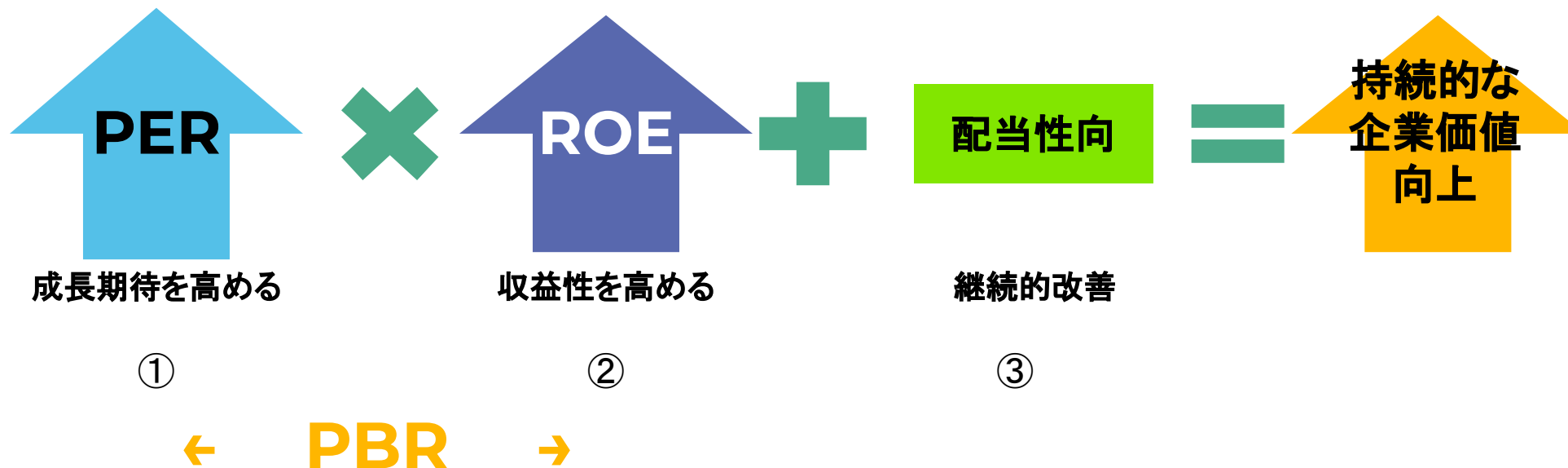
連結営業利益推移



03 持続的な企業価値の向上に向けて

企業価値向上に向けての施策

持続的な企業価値向上を目指し、PBR(1倍超)と配当性向の向上を図る

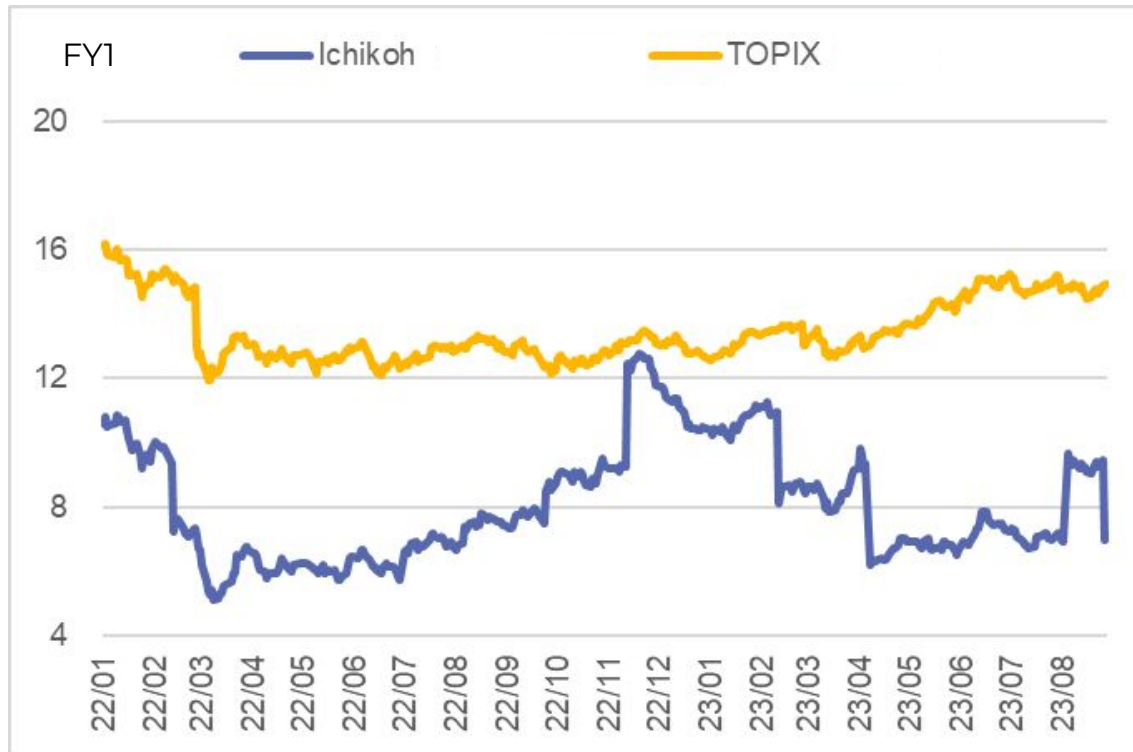


3つの軸の改善に注力

① PER	15倍	⇔ 現状 7~10倍
② ROE	12%	⇔ 実績 8.1%
③ 配当性向	25%~	⇔ 実績 20%

PER向上の施策

TOPIXのPERの傾向は12~16倍
市光工業の同時期のPERは約8倍



3つの柱に基づく戦略によりPER最大15倍を目指す

1. Enlightened (目的手段を再定義した) 成長戦略

- ・インドネシア市場の力強い成長をさらに取り込むための事業拡張
- ・高い成長が見込まれる新地域への参入
- ・ヴァレオの有する先端技術およびグローバル拠点網とのシナジーを再強化して、グローバルプラットフォームでの競争優位を確立

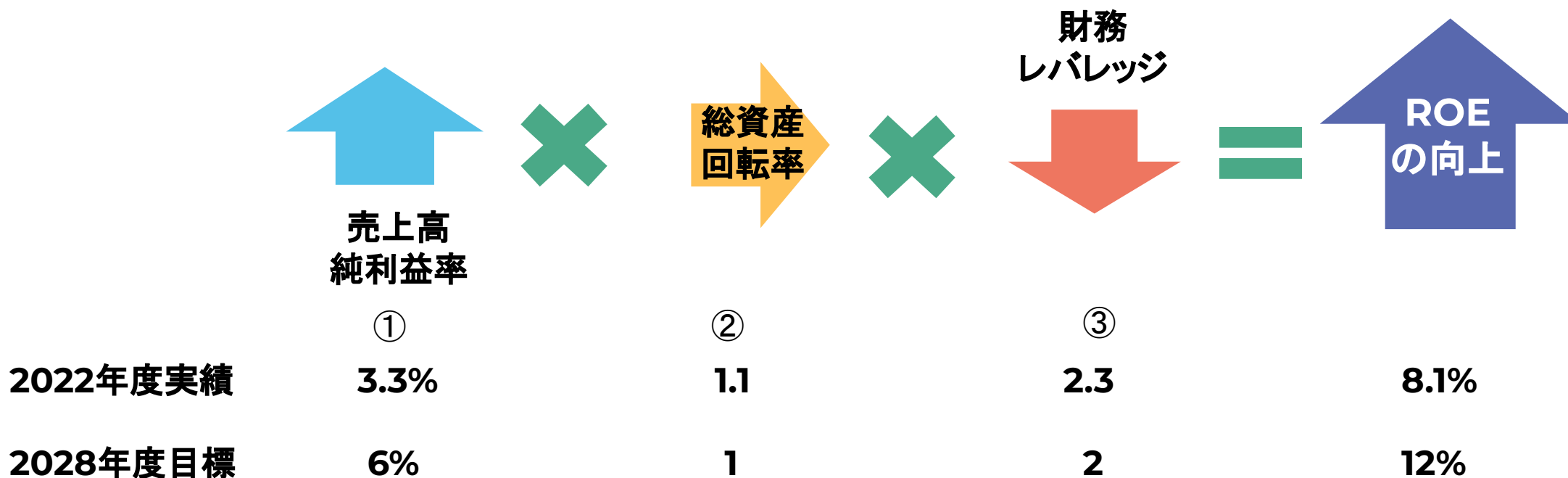
2. 差別化された高付加価値製品の開発のためのR&D投資

- ・お客様独自のブランドイメージの確立をサポートする商品開発
- ・電動化と自動運転の革命が生み出す成長機会を獲得

3. カーボンニュートラルと人的資本への投資

- ・市光グループに属する全ての人材への教育、投資を継続し、優秀な人財を育て、組織の継続的な発展を達成
- ・気候変動対策における企業としての責務を果たしつつ、カーボンニュートラルや省エネルギーによるメリットを享受

ROE向上の施策



投資による成長戦略の実現 + 生産性向上 → ROE向上 12%を目標

- ①生産性向上に加えイノベティブな差別化商品による魅力向上 ⇒ 収益性の向上
- ②積極的な投資を行うものの余剰資金を有効活用 ⇒ 総資産回転率は現状並みを維持
- ③収益性の向上で自己資本の一層の充実 ⇒ 結果として財務レバレッジの低下

配当性向の向上

2024年の配当性向目標: **25%**を目指す、**継続的に配当性向を伸ばす**

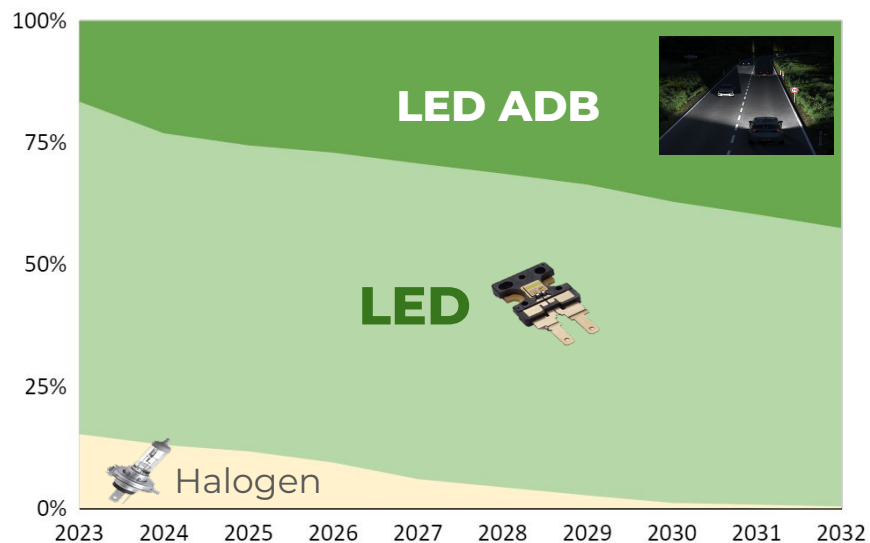


ヘッドランプ / リアランプの使用光源推移予測 (弊社予測)

Japan



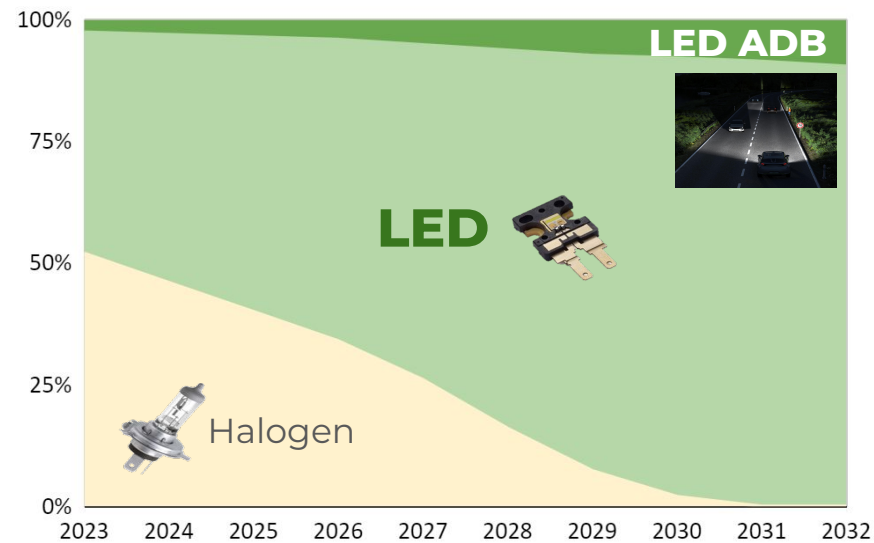
Head Lamp



Asean



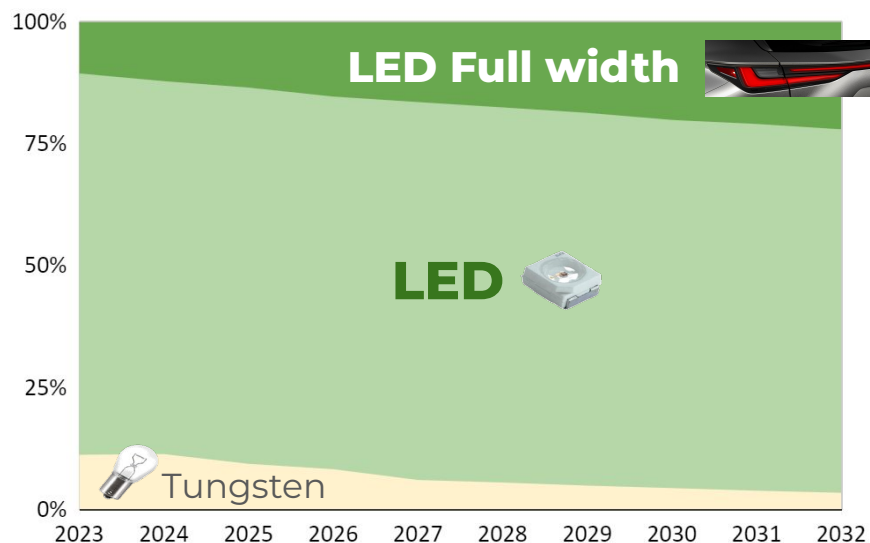
Head Lamp



Japan



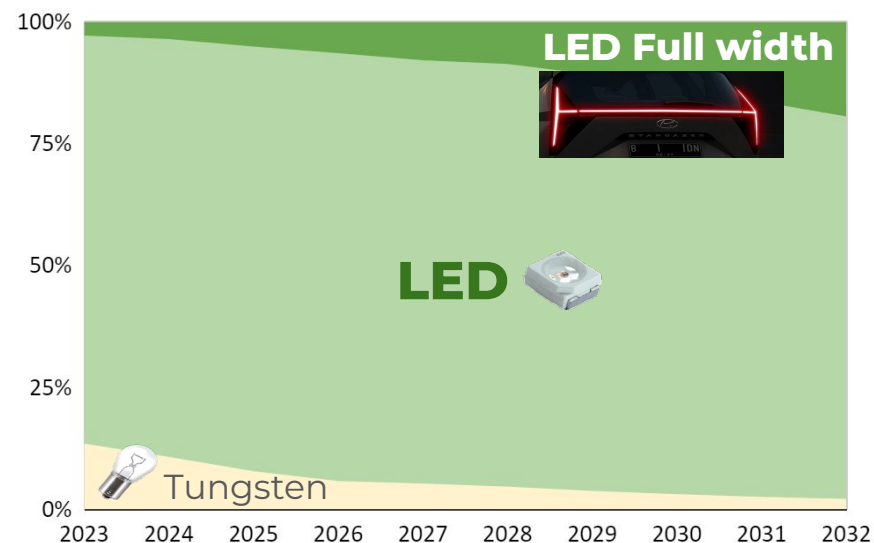
Rear Lamp



Asean



Rear Lamp

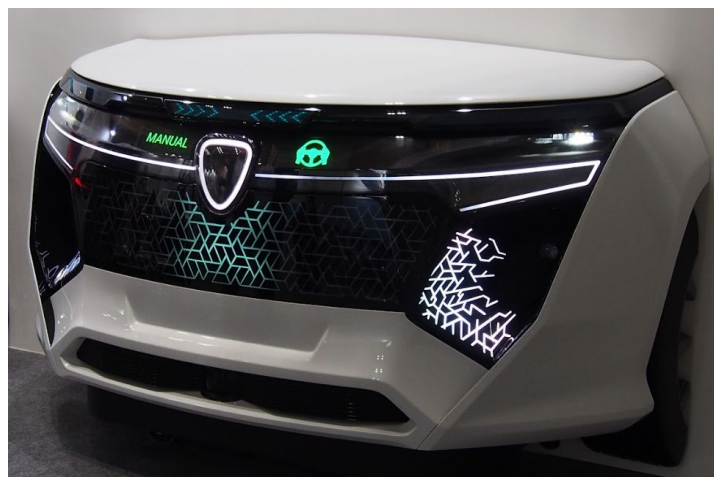


イノベーティブな高付加価値商品 日本初公開)次世代フロントリア・フェイス

市光工業は、
人とくるまのテクノロジー展2023横浜にて、「ライティング・エブリウェア」をテーマに、日本初公開の電動化・自動運転時代の車両に向けた新しいフロントリアフェイスを展示し好評を博しました。
コミュニケーション・ライティングをさらに発展させていきます。

電動化・自動運転時代の車両に向けたフロントフェイス:

グリル・バンパー部にまで広がったライティングは、周囲の道路利用者への”視認性”を向上させ、より安心・安全な社会の実現に向けたコミュニケーションを促進します。



新しい時代の車両に向けたリアフェイス:

最新のスタイリングトレンドに沿ったライティングは車両に先進的な印象をもたらし、大型のライティングエリアは "被視認性"というリアランプの最も重要な役割をさらに強化します。



イノベーティブな高付加価値商品 自動運転バスにHMI:コミュニケーション・ライティングで安全・安心

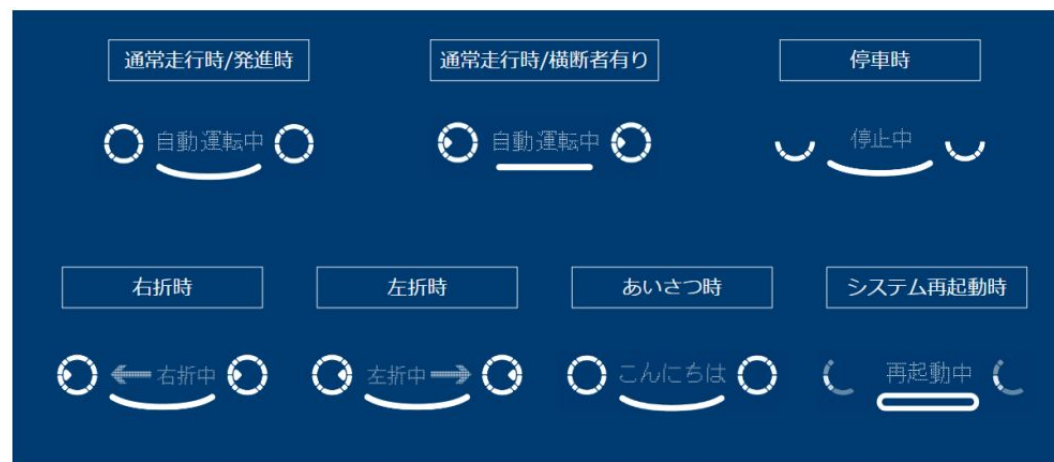
市光工業およびソフトバンクの子会社であるBOLDLY株式会社は、2023年6月19日～7月5日に茨城県境町の公道において、将来のレベル4での自動運転サービスを見据えて、自動運転車から周囲の交通利用者(歩行者やドライバー)へのコミュニケーションを支援する外向けHMI(Human-Machine-Interface、ヒューマン・マシン・インターフェース)の実証実験を実施しました。

本実証は、茨城県境町で運行されている自動運転バスに市光工業が開発したディスプレイを設置し、車両の状況に応じて文字や表情で「発進」「横断者あり」「停車」「右折」「左折」「あいさつ」などのサインを表示する試験です。これにより、ドライバーが通常行う周囲の交通利用者とのコミュニケーションの一部を外向けHMIが代替します。

目標は、レベル4の自動運転サービスにおいてドライバーが不在の場合でも、外向けHMIを活用して周囲の交通利用者と適切なコミュニケーションを取り、安全安心な運行を実現することです。



<外向けHMIを設置した自動運転バス>



<外向けHMIで表示するサイン>

テレビ東京系列「知られざるガリバー～エクセレントカンパニー～」に市光が出演

市光工業は、

テレビ東京系列で2023年6月17日に放送された「知られざるガリバー～エクセレントカンパニー～」に出演いたしました。同番組は、世界に誇る日本企業にスポットを当て、ものづくりを通してその企業の魅力を紹介するドキュメンタリー番組です。

放送では、代表取締役社長CEO ヴィラット クリストフ のインタビューをはじめ、弊社の技術や工場が取り上げられ紹介されています。

* [テレ東BIZでバックナンバー](#)として閲覧可能です。

番組内容紹介:

車の安全な運転に重要な役割を持つ、ヘッドランプ、テールランプ、ウインカーなどの光を発する自動車部品の開発製造で業界を牽引するのが100年以上の歴史を誇る市光工業です。光を巧みにあやつる設計技術に長けており多くの自動車メーカーにランプ製品を供給しています。番組ではそんな市光工業のまぶしくないハイビームや道路に光を投影するランプなどの最前線情報をご紹介します。



予測に関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、市光工業株式会社(以下、当社)が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

ご利用に際しては、ご自身の判断で御願ひ致します。資料に記載されている見通しなどに基づいて投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失についても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権は当社に帰属します。いかなる理由によっても当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

ICHIKOH
a Valeo company